

会 議 録

会議名		令和4年度 第9回 小金井市学童保育所運営協議会
事務局 (担当課)		児童青少年課
開催日時		令和5年1月24日(火) 19時00分～20時30分
開催場所		第二庁舎8階801会議室(一部オンライン会議により開催)
出席者	委員	深草委員長、田畑委員長、大澤委員、中山委員、鈴木委員、松川委員、下田委員、佐藤委員、良知委員、沢村委員、大島委員、大村委員、馬場委員
	事務局	野村学童保育係長
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 令和5年度入所児童数見込みについて (2) 第3学童の状況について (3) その他 3 閉会
配布資料		【資料 4-24】 令和5年度入所申請数(11月30日現在) 【資料 4-25】 【補助員の導入について】 【補足資料】 災害時の対応の補足説明
議事		1 開会 委員長より挨拶、議題の紹介 2 議題 (1) 令和5年度入所児童数見込みについて (市) 令和5年度入所児童数見込みは令和4年11月30日現在の数値で前年度より117名増。例年ここから、市外転出など多少の増減が見込まれる。 (学) 今回の申込数は見込みから大きく外れてはいないのか。 (市) 見込みを上回る数値にはなっている認識。小学校の児童数増や

共働き世代増などの要因もあり希望者が増えている。大幅にということはない。

(市)

見込み数値は出たところだが、今現在、新たな施設の確保の目途は立っていない。現状の各施設を利用し対応することを想定している。また、民間物件の利用も含め来年度以降も引き続き検討する。子ども子育て支援事業計画では3施設（育成室）を作る計画であったが確保できていない。

学校施設で借りられるところを調整するなど、来年度以降も、民設民営も計画を調整していく。次回以降また状況をご報告したい。新市長の意向としても全入の堅持だがこれ以上児童数が増えて場所の確保が難しくなると様々な検討が必要と考えている。

(学)

場所として土地がないということが大きな課題と認識しているが状況はどうか。

(市)

市で探している物件は市が建設する考えだがなかなか校庭などに建てられず、学校から離れている場所も難しい。民設民営の場合は民間に探してもらい募集に手を挙げてもらう。ただし、そのような方法がいいのかは考える必要がある。

(学)

3施設（育成室）はどこか決まっているのか。

(市)

決まっていない。入所の希望人数の見込みを見て計算上は3施設（育成室）が必要という計画であったが、場所までは具体的に決まっていない。

(学)

来年度のはじめは現状のままいくことは理解した。今後すでに学校施設を借りているところでは民設民営も検討する話があったが、学校施設を新たに借りる方法はないのか。

(市)

育成室の確保策として必ずしも民設民営だけにしている訳ではなく学校施設で借りられればと考えている。

(学)

承知した。たまむし学童もまたかなり増えるということで東小も施設を増やすようなこともあるようなのでまた学校施設を借りられることもあるかもしれないと感じているが。

(市)

一小、三小、東小、緑小で35人学級の対応のために学校増築の動きもある。教育委員会でも学童のことを加見しており連携して対応していく。

(2) 第3学童の状況について

(市)

東小のたまむし第3学童の育成室は1月から改修工事開始。これまでと別の教室で保育することになる。令和5年1月7日に引っ越し、1月11日より運営開始。緑小のみどり学童は1月から工事開始しており、これまで被服室を利用しサブルームとして第2音楽室を利用していたが改修に入るため家庭科調理室を1月12日から使用し運営している。家庭科調理室は使えない日もあり、緑児童館を借りるなどして対応する。なお、広報は近日予定となっている。保護者への説明が急な話となり申し訳ない。南小のみなみ学童も視聴覚室を利用していたが改修のため、くじらぐも学級プレイルームの教室利用を調整しているが、教育委員会などとも相談していく。

(学)

ひとつの学童では役員会があり唐突な話だったので印象が良くなかった。調理室のスペースはあるということだが子ども達の遊び方や指導員への負担など影響はどうか。

(市)

周知が遅くなった点は申し訳なかった。予算の関係があり、12月の市議会での可決等などを経てのお知らせとなってしまった。調理室での運営については現地で確認したが、机や椅子などの調整をしながら安全な運営を工夫しており子どもたちの遊びの様子なども確認した。放課後子ども教室も開催されており、学童現場側の理解もしていただきながら過ごしている。

(学)

指導員の負担等はどうか。

(市)

子ども達の安全のための工夫は新たな負担の面もある。片付けなどもあったが色々調整されている状況。校長や副校長含めて学校の他の教室利用など出来ないか相談もした。負担をかけてしまう点は申し訳ない。

(学)

懸念としては保育する場所が使えないことがあると児童館に行くなど、色々と移動しなくてはならなくなるので子ども達が落ち着ける環境を実現してほしい。

(市)

承知した。

(3) その他

(市)

前回報告した補助員の導入に関して。

(学)

スケジュールについては2月の第一回の定例会に間に合わせるように検討を進める必要があるという認識だったが。

(市)

前は委託所については加配導入に関して理解していただいているところと直営の状況もあり、なるべく早く導入したいと伝えたところだが改めて丁寧に検討を進めようと考えた。

小金井市としては他市動向も踏まえて補助員導入をしていきたいのとその方々を育成し2年間実績を積みれば資格を持てるようになり、都の研修を受けて放課後児童支援員になれることにもつながる。人材不足への対応も考慮している。補助員も様々な研修受講も出来るようにして質の確保にもつなげたい。3月の現協議会委員との間で内容を整えてその後予算を出すところと協議して導入と考えるがどのようにするかはさらに検討したい。

(学)

学保連の代表者会議において協議した内容を報告する。検討については時間をいただけるということでありがたい。人材確保の必要性は理解があり、概ね導入の意向は理解がある。学歴不問とする旨についても問題ないと意見が出た。ただし、補助員を育成するという話もあったが募集要項に教員や保育士などの指導員資格取得を目指す人という文言を入れるなど対応できないかという意見もあった。また、有資格者と無資格の補助員との間の業務の線引きが明確に出来るのかという点も。何かあった場合に補助員しか対応できずに責任所在が不明確になることを懸念している。一番声が多かったのは正規職員の処遇改善を進めるべきということ。

(市)

採用に関する文言については預からせていただく。手続き上の条件に載せられるかは形を確認する。難しい面がある。補助員の業務の内容に関しては運営基準の中で明確にしている。補助員だけの対応になる状況は作れないように設定されている。待遇に関しては東京都の基準に合わせているため独自では難しい。小金井市は正規職員が多い状況。

(市)

もともと正規職員がすべての業務をやっていたが児童数が増えて職員募集も来ない状況にもなり本来の保育に携わるためには補助員が必要。児童に向き合える時間が増やせる。児童を見られる目も増やせる。

(学)

現状も理解できるが正規と会計年度(月額・時間額)、補助員の業務がある程度明文化されているとより良いのでは。

(市)

2年間補助員が実績を積んで、研修を受講すると資格職と同等になれる。業務マニュアルに指導員以外の業務内容が記載されているので提示する。

(学)

保育に携わる人が増えて補助員として学生などが関われるようになるのは良い機会とも捉えられるし、小金井としての特長もいかしてよりよい採用を目指してほしい。

(市)

今後、より丁寧に検討を進めていきたい。

(学)

学童の父母会内で補助員に関する不安の声はある。指導員の待遇改善は同時に進めてほしい。学歴不問に関してはどのような規定があるのか。

(市)

現状小金井市の職員募集で学歴要件は入っていない。市全体としてそのような方針。

(学)

将来、ほんちょう学童は委託の計画だが、その場合の職員の処遇はどうなるのか。

(市)

具体的な詳細は未定。今のところ委託をしていく方向は決まっている状況まで。

(学)

承知した。

	<p>(市)</p> <p>学童利用アンケートに関して概要版は集計中。次回提示予定。</p> <p>3 閉会</p> <p>次回の小金井市学童保育所運営協議会は2月28日(火)を予定。</p>
--	--